

株式会社 御中

# [ビジネス英語・特別講座]のご案内

～[「留学経験なくても、大丈夫、ここまでできるようになる」秘密の講座]～

UBG Training Program

平成 年 月 日  
ユニバーサル・ブレインズ株式会社

# [ビジネス英語・特別講座] 概要



## 研修の目的

今や事業会社の売上の半分以上が海外源泉である場合は意外と多いのです。今や日本企業で外国と何らかの関係を持たずにオペレーションできる企業はないといっても過言ではありません。

とはいっても、すぐに必要となる「ビジネス英語」は、一筋縄ではいきません。

でも、心配無用。ネイティブに英会話を習わなくてはという古い強迫概念はもう忘れましょう。これからあなたは「外国籍」に変わるわけではないのです。ここが大切です。異文化コミュニケーションの技術をもとに、英語を学ぶことこそが、重要なのです。もうひとつ、重要なことは、「知っている」英語を広げようとせず、ご自分が「使える」英語を広げることです。

外国人と取引し、海外で成果を上げればよいのです。そのためにこそ、このビジネス英語特別講座は役立ちます。

## 研修効果

● ビジネス英語を学びながら、同時に、異文化コミュニケーションの「理論」と「ノウハウ」を、「フレームワーク」として、身につけることができます。

そのため、なんといっても、「納得感」があり、ビジネス英語の実務への幅広い「応用」が利きます。

その結果、海外生活や海外取引・交渉の中で生まれる「ストレス」を上手くマネジメントできる「戦略」を身につけることができます。

● また、新しく語彙や表現方法を覚えこむことではなく、知っている語彙と表現で実際に使える範囲を広げるように再構成することです。

● 海外赴任前の研修効果は、絶大です。海外での取引拡大を目指す海外営業部門のマネージャー・社員も必見対象です。

## ビジネス英語・特別講座 のメリット



- 異文化適応に関する基本的知識を身につけ、**英語で、最も旬なトピック**を学ぶことができます。
- 在日外国(英・独)企業で、外国人上司・同僚・部下を持ったことがあり、長い期間にわたり異文化環境下での役員・マネジメント経験がある、実務経験豊富な日本人講師が、惜しげもなく、その経験と知識を**ワークショップ形式(双方向対話方式)**で、ファシリテートします。
- 「**異文化適応コミュニケーション理論**」の最先端を披露します。そのフレームワークを身につけることができます。理論的バックボーンは、**ジョセフ・ショールズ博士(立教大学大学院異文化コミュニケーション学科)**に依拠しています。
- 異文化適応の理論をビジネス英語の世界で、つなぎこみをします。**ビジネス英語の世界で異文化適応理論も学べるユニークな講座は、ここでしか学べません。**

## ビジネス英語・特別講座 のメリット



- **レッスン時間は、ウィークデイ1日2時間(一週間に1回)で3週間で、1フェーズが終了します。それを3フェーズ行います(合計9週間) 従って、合計2ヶ月半という「ちょうどいい」期間でマスターできます。それが短時間に強力な効果が出るハイインパクトセッションのシリーズなのです。**
- **内容をカスタマイズすることで、貴社要望・仕様に合わせ、より短時間でまとめたり、さまざまな要素を盛り込んでより長期にすることも可能です。**
- **査定と報告書は、各人につき出席状態、向上の程度を記録し、以後の参考やアフターケアのために作成いたします。**
- **異文化適応に関する個人適性については、ジョセフ・ショールズ博士によるフィードバックが受けられます。質問票・個性分析結果・グラフ化・教授本人によるフィードバック・コメント(英語)がオプションとしてセットされています。**
- **研修費用は、非常に合理的な料金です。料金体系表をご請求ください。**

## 【ビジネス英語・特別講座】\_カリキュラムの1例

**【ビジネス英語・特別講座】は、  
東京またはその他の場所も可能。**

- 所要時間(期間) 合計18時間 (1日2時間9日間)
- 原則 **Basically Bilingual** で実施します。
- クラス分けテストなどは実施する必要がありません。
- 講師は、笈川代表講師が担当します。



No.	時間配分	学習項目	内容	進め方	ねらい
O	10	オリエンテーション	講師自己紹介 研修の目的・進め方の確認 アイスブレイク	ゲーム	研修の目的を明確にし、研修効果の出やすい場作りを行ないます。
P1	2時間(1日) ×3日間	異文化適応に関する最新のフレームワークを学ぶ	異文化とは、何か。 見方の違いのもたらすもの。 さまざまな事例	対話式のワークショップ方式による。 (Bilingualで実施)	異文化適応の現実を知り、基礎知識を身に着ける。
P2	2時間(1日) ×3日間	コミュニケーション・スタイル	日本人が英語でコミュニケーションをとる場合にこそ意識すべき欧米流「4つのコミュニケーションスタイル」の使い分けを学習します。	それぞれのコミュニケーションスタイルに応じた場面を設定して、Bilingualでワークショップする。	異文化の中でコミュニケーションする方法論を体得する。
P3	2時間(1日) ×3日間	職場(海外営業)での対人交渉スキル	欧米では学校やトレーニングで学ぶ「対人交渉スキル」を英語で身につける。(Interpersonal Skill)	ケーススタディで事例別・場面別に学ぶ。 Bilingualで、効果を体得しながら、応用する。	異文化適応行動と対人交渉スキルとを結合させる。
P4	0.5時間	まとめ	実際のアクションプランの作成		

# FAQ



- ・ 質問
- ・ ビジネス英語セミナーに参加する場合のクラス分け試験はあるのですか？
- ・ 参加資格として要求されるTOEICの点数は何点ぐらいでしょうか？
- ・ 答え
- ・ 参加のためのクラス分けなどの試験はありません。また参加最低必要TOEICの点数もありません(日本人の平均は500弱のようですが、それ以下でも大丈夫です。逆に700以上の人にとっても眼から鱗のセミナーです。)
- ・ 質問
- ・ では、どうして英語能力のテストがなくて大丈夫なのでしょう？それでも支障なく上達できるのでしょうか？
- ・ 答え
- ・ 大丈夫、上達できます！それは、「コミュニケーション」が英語学習の目的だからです。言いたいこと聞きたいこと、交渉の目的を達成すればコミュニケーション成立です。ビジネス英語もビジネスの成功や交渉の成立が目的です。それ以上でもそれ以下でもありません。ビジネス英語の目的達成のためには、ネイティブ並みの英語それ自体には価値はない、とさえ言えます。それぐらいの良い発音と豊富な語彙があっても、ビジネス交渉の成功には結びつきません。そこに必要なのは「高いコミュニケーション能力」を身につけることと「インターパーソナル・スキル」と呼ばれる対人関係構築のスキルを上手く身につけてしまうことです。これは日本語でも英語でも実は同じことで、日本人にとってはむしろ英語を使った方が無理なく習得できるのです。
- ・ お分かりいただいたように、このビジネス英語特別講座では、このコミュニケーションのベストプラクティスを習得目標としているので、語彙力のテストなどは不要なのです。もし貴方がネイティブの講師の英会話につきあってみたい場合はそのような英会話学校に行ってください。もし貴方が英文法を勉強したければ英語学校へどうぞ。この講座では、留学経験せずとも、「日本にいながら、ビジネスを成功に導く英語を身につけられる！」それがビジネス英語特別講座です。そのため、そもそも、学ぶみなさんと講師とのコミュニケーションも大切ですから、レッスンで使われる言語は英語・日本語のバイリンガルです。
- ・ 質問
- ・ どのくらいの期間、ビジネス英語に参加すればいいですか？
- ・ 答え
- ・ レッスン時間は、ウィークデイ1日2時間(週1回)のインターバルで、3週間で1フェーズが終了します。それを3フェーズ行います。(合計9週間)これが標準タームです。2ヶ月半で、貴方が今遭遇しているまたはこれからチャレンジする「英語でビジネス」の現実に結果で答えを出せるようになります。

# FAQ



- 質問
- 本当に、現実に使えるビジネス英語が身に着くのですか？
- 答え
- まず、レッスンに積極的に参加しましょう。それともうひとつ。初めに貴方のゴールを設定しましょう。問題は、ゴールの立て方なのです。私達ビジネスパーソンが大きく成長するためには自分の将来なりたい姿を明確化し、壮大なビジョンを描くことは重要なことです。ただ、大きなビジョンを描けば描くほど現実とのギャップが立ちはだかります。そんな時、あなたはそのギャップを埋めるためにとてつもなく難しい目標を立てて挑戦したことはないでしょうか？思い立った数日間は高い目標達成に向けて挑戦するものの、成果が表れないのに疲れてすぐに目標を諦めてしまったということを多くの人を経験していることから明らかです。では、どうすればいいのでしょうか？
- それは“できることから小さく始める”ということです。高いコミュニケーション能力としっかりした対人交渉能力を身につけること、そして英語を使って実行しコミュニケーションを成功させる訓練をすることがポイントです。実際のビジネスのプロセスに合わせて、英語での成功体験と失敗体験をワークショップ形式で訓練します。ワークショップでも最初は仮想題材ですが、すぐ実際のビジネス空間に題材が移っていきます。そのような努力をできることから始め、コツコツと階段を上るようにビジョンの実現へと近づいていけばいいのです。そうすれば、自分の能力を極端に上回るチャレンジもないので、無理なく一歩を踏み出すことができますし、継続するにも困難が伴わないので、気付いた時には途方もないと感じていた高い目標・自分が現実に使える英語に近づいているのです。
- 質問
- 電話やテレフォンカンファレンスで、自信を持って会話を進められるようになりますか？
- 答え
- 電話も、限定的手段しか使えないけれどやはりコミュニケーションなのです。誤解せず、また、誤解させずに、理解する、理解させる技術を、状況に応じて、構成していきます。これも、単に文例だけ覚えていても、発音がネイティブでもそれらは、全く役に立ちません。電話会話こそビジネス英会話つまり仕事のコミュニケーションの基本なのです。英語での電話をゴールにすることもできますね。レッスンでは、この分野も重要な時間として割り当てられています。他方、テレフォンカンファレンスはネイティブにとってもコンテキストがわからないと非常に聞き取り難いのです。コンテキストをしっかりと理解しつつ、聞き取れない部分を明確に聞き返したりパラフレーズすることが必要になります。これは英語の技術よりもattitudeの課題でしょう。



### 〔会社を取り巻くグローバル化の現実〕

今や事業会社の売上の半分以上が海外源泉である場合は意外と多いのです。そこでは、取引先や顧客が海外であることが特徴です。他方、再生しようとする会社だけでなく実は業績の良い会社であればあるほど株主構成も外人株主が相当のシェアを占め始めていることも多いのです。

このような環境の変化は自社の強みを生かし、弱みを補強してゆく中で、確固たる戦略を確立し実行することこそが生き残りの道です。ところが、こうした内外を取り巻くグローバル化の中にあって、そのような確固たる戦略を確立することは日本企業にとって至難のことです。日本的な強みを失わずに、グローバル化にも巧妙に対応する必要があります。

### 〔異文化適応の時代へ〕

しかし、キーパーソンだけを海外に2年間あるいは1年間MBA留学させる時代は終わりました。また、いわゆる英語屋さんでは、ビジネス実務は仕切ることではできません。今や、実務に長けた中堅マネージャーが社内で、しっかりと仕事をこなしながら、グローバル化に相応した内容で、「異文化適応ノウハウ」を身につけなければならない時代が到来しました。もちろん、海外赴任を控えるビジネスパーソンだけでなく、海外市場を相手にしている海外営業部や海外子会社を束ねるホールディングカンパニーにとっても、これは必須事項です。

### 〔日本人のためのビジネス英語の時代へ〕

そのためのツールとしてビジネス英語は、ビジネス上のコミュニケーション・交渉の道具です。そのためには実務経験のない英語講師やネイティブスピーカーではなく、留学経験がなくても、これだけの英語力を身につけることができ、それを現実に使えることを伝授できる、日本のビジネスパーソンの気持ちのわかる、そのような日本人講師こそ求められているのです。



- 「英語でプレゼンテーション」 クラス 10時間
- (5時間/1日 合計2日)



**この科目を追加すると、英語でプレゼンテーションする機会を前にした日本人ビジネスパーソンに絶対の自信をつけさせます。人前で英語を話す訓練をしたい方、英語でのリーダーシップ能力をつけたい方にも最適です。**

**実際に、英語プレゼンを得意とする日本人講師と実務経験のある外国人講師がペアとなって、ワークショップ形式で学ぶことができます。参加者は、段階を追って重要事項を学びつつ、実際にパフォーマンスしますので、「気づき」を発見し、「場数をふむ」ことができるのです。最後に実際に一人一人英語でプレゼンを実行してみます。その様子は、ビデオ撮りされ(外国人技師が行いますので、聴衆が外国人という臨場感があります。)それをCDに焼き、講師の講評と有益なアドバイスが一人一人なされます。外国人も参加可能。**

**経験豊富な講師のファンレクションでレッスンを進めます。(土曜、日曜のみ開講)**

**研修費用詳細は、別途お見積りによります。**



- ・「英語で報告書、英語でメール 2ヶ月間コース」
- ・2時間/週1日 合計8回

日本で、経験豊富な日本人講師と実務経験のある外国人講師ペアで、きちんと、まとまった「報告書・レポート作成」と「Email」作成極意」の専門的講義を受けておくことは、現代のビジネスパーソンにとって、必須事項です。現地においてからのトレーニングでは遅すぎます。

それだけでなく、日本で海外営業・海外取引・海外M&Aなどするときにも絶対に必要となるスキルです。ロジックを追いながら、**現場のビジネス英語**でしっかりと学びます。

しかも、無駄を省いて、役に立つことしかやりません。異文化問題と慣習・法令の違いの問題なども考慮にいれます。単に英語表現のテクニックだけを伝授するものではありません。

担当講師は、ユニバーサルブレインズ グローバルマネジメント・渉外スペシャリストです。

研修費用詳細は、別途お見積りによります。

# 会社概要



社名：ユニバーサル・ブレインズ株式会社

所在地：〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町2-1-1 アスパ日本橋 電話：(03)-6214-2238

アクセス：地下鉄半蔵門線三越前駅 B1出口 徒歩0分

地下鉄銀座線三越前駅 A5出口 徒歩4分

地下鉄東西線日本橋駅 A1出口 徒歩4分

JR 東京駅 日本橋口 徒歩5分

設立：2006年4月

代表者：代表取締役社長 笈川 義基

アソシエイトメンバー：11名

資本金：10,000,000円(2008年2月1日現在)

事業内容：経営戦略系コンサルティング、組織・人事コンサルティング、スキル・トレーニングサービス、社内研修受託サービス、リスクマネジメント・コンサルティング、金融関連コンサルティング(商品開発、保険計理分析、資本政策、ガバナンス確立支援、規制対応支援)、出版

# 会社概要



笈川義基（おいかわよしもと）代表取締役社長  
1952年生まれ。東京大学法学部卒業。

英国系総合商社、英国系損害保険会社、ドイツ系損害保険会社において、営業、業務、IT、再保険、商品開発、コンプライアンス・オフィサー、経営企画、M&A、人事担当役員などの基幹業務を現場長として経験した。4年間の取締役としての活動後、人事コンサルタント業務（戦略HRM）および研修事業を行うユニバーサル・ブレインズ株式会社を立ち上げる。

**戦略人事**（経営戦略と人事との一貫性）を旗印に、企業の成長原動力であるヒトと組織をいかに結合するかの解を求め、グローバル化する大企業だけでなく成長ステージにある中小企業をも実務能力と現場感覚で支援する。何が課題なのか、困ったことが何かがわからずに悩む経営者への、**Solution Provider**（課題解決請負人）となる。

日本震災パートナーズ株式会社 元監査役（金融庁登録日本最初のミニ保険会社）

## 社会活動

六本木アカデミーヒルズライブラリーメンバー。六本木Bizビジネススクール講師。  
国際公正取引NPO理事。  
組織人事監査協会公認パーソネルアナリスト。

## 学会活動

人材育成学会（会員）  
産業組織心理学会（会員）  
経営行動科学学会（会員）

## 公的活動

内閣府 地域経営研究会 委員歴任（2008～2009）  
内閣府 経済社会総合研究所「地域経営の観点からの地方再生に関する調査研究」報告書  
報告内容

